



名古屋工業大学 URAメールマガジン

2016年 7月 4日

Vol.002

発行:名古屋工業大学リサーチ アドミニストレーション オフィス
TEL ☎ 052-735-7424 URL 📧 <http://rao.web.nitech.ac.jp/>

■ INDEX

- ト【1】本学の論文に関するデータ紹介
- ト【2】オンライン国際情報配信サービス「EurekAlert!」を始めました

【1】本学の論文に関するデータ紹介

平成27年度は第2期中期目標期間の最終年度に当たり、この間の教育研究状況についての評価に係る「実績報告書等」が平成28年6月末の提出期限に向けて準備されました。URAオフィスも「学部・研究科等の現況調査表 研究」分について、資料まとめに協力させて頂きました。

以下には本学の研究の量と質のトレンドについてデータの概略を紹介しております。第2期中期目標期間の成果を一言で言うと、教員1人当たりの論文数は第1期終了時と比較して堅調に推移している事、質の面では国際共著論文、及び各分野でTop10%に入る論文の割合が増加して全体として論文の質は向上していると言えます。また、CNCIについて、第1期期間中は右肩下がりだったものが、近年になって右肩上がりにU字回復しつつあると言えます。CNCIの上昇に貢献している分野の例を示しておりますが、本学の強みの分野がこの期間に変わりつつあると読めるのではないかと思います。(ここに示したデータはあくまでもトムソンロイター社のデータベースに登録された論文に基づくということが前提条件です)

表1: Web of Scienceによる本学の論文の質と量の推移

区分	第一期						第二期					
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
論文数	463	498	482	419	445	412	419	412	470	451	414	408
教員数	374	385	386	376	366	355	355	354	339	344	340	333
教員数1人当たりの論文数	1.24	1.29	1.25	1.11	1.22	1.16	1.18	1.16	1.39	1.31	1.22	1.23
国際共著論文数	55	71	73	81	102	84	87	113	108	99	99	95
本学全ての論文に対する国際共著論文数の割合(%)	11.88	14.26	15.15	19.33	22.92	20.39	20.76	27.43	22.98	21.95	23.91	23.28
本学全ての論文において被引用数が各年各分野でTop10%に入る論文の割合(%)	5.62	6.43	7.68	6.92	4.94	5.1	5.49	5.34	4.68	6.21	7.25	5.88
CNCI	0.79	0.73	0.73	0.75	0.65	0.69	0.65	0.66	0.62	0.7	0.75	0.77
被引用数	7,573	7,296	6,310	5,590	5,140	4,622	3,814	3,269	2,883	2,161	1,249	437

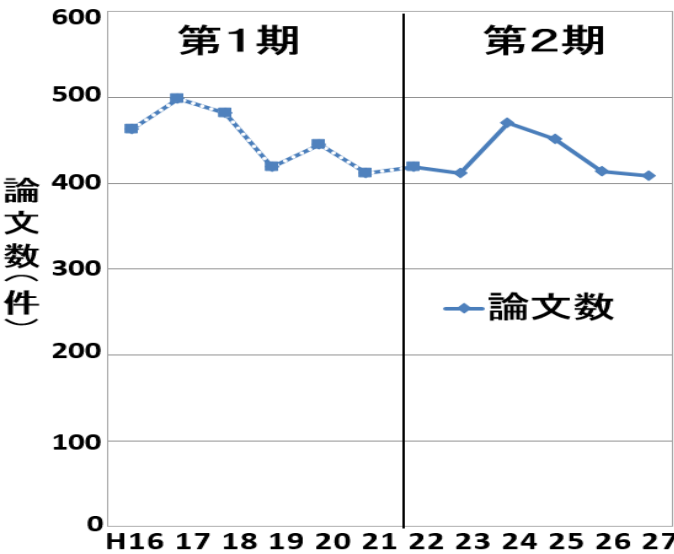
出典: トムソンロイター データベースInCitesでH16-H27までの論文(Article, Review, Letterとする)をEssential Science Indicator (ESI)で分類した(平成28年5月31日時点のデータ)。

Top10%論文の割合: 当該研究分野でTop10%に入るほど、引用されている論文の割合

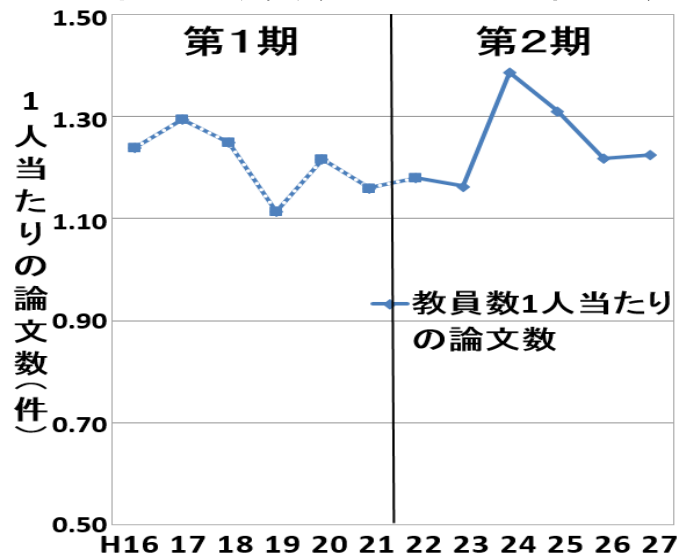
CNCI: 論文/総説等の被引用数を元に、分野、論文様式や発表年を超えて比較できるよう正規化された研究レベルの数値、世界平均は約1

ESI: 研究分類法、出版社別による22分野の分類(2015年 文科省、科学技術・学術政策研究所による大学ベンチマーキングにも使用。)

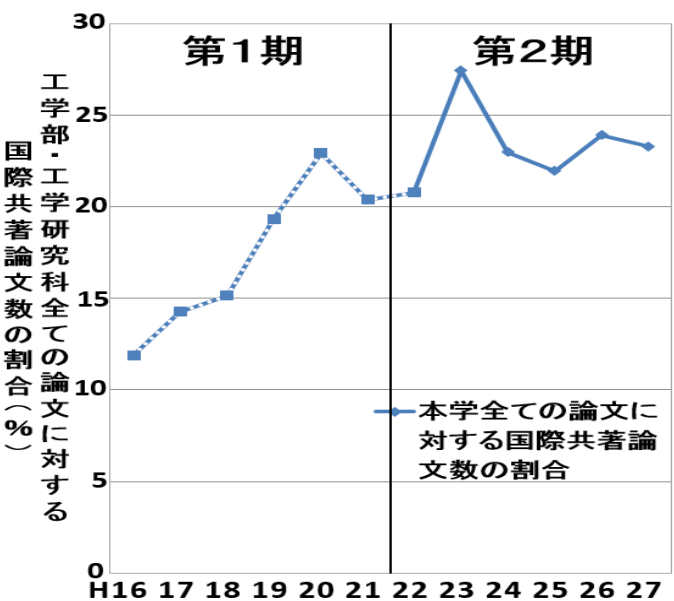
本学の論文数の推移



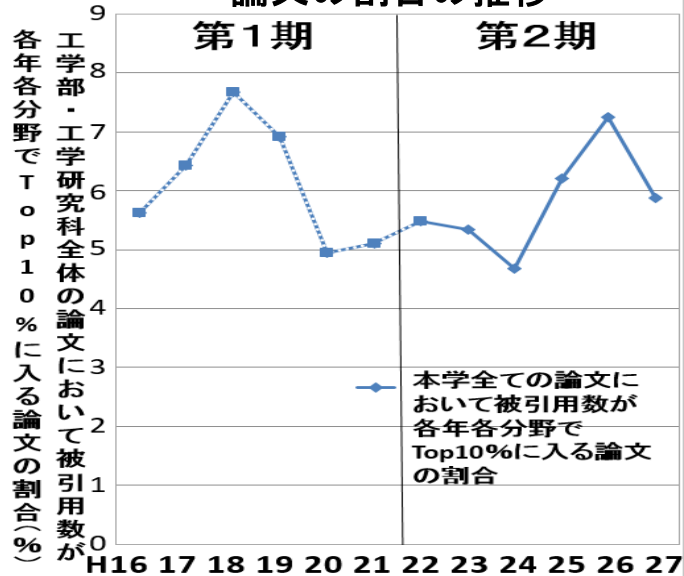
本学の教員数1人当たりの論文数



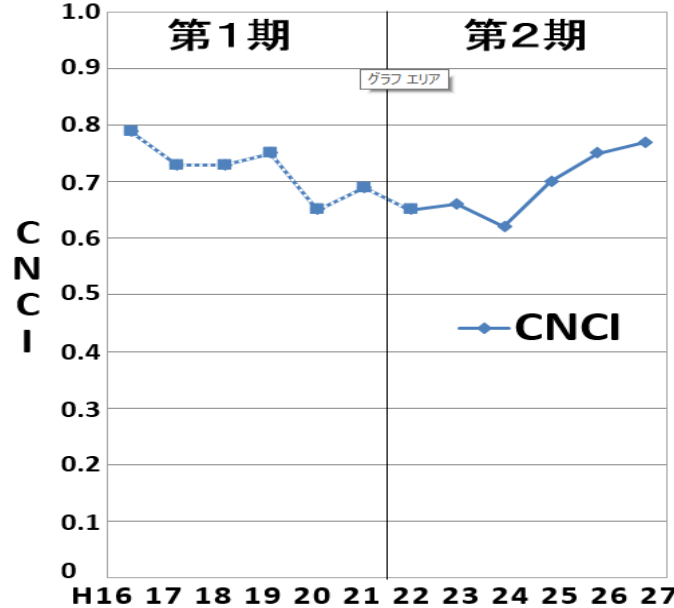
本学の論文に対する国際共著論文数の割合の推移



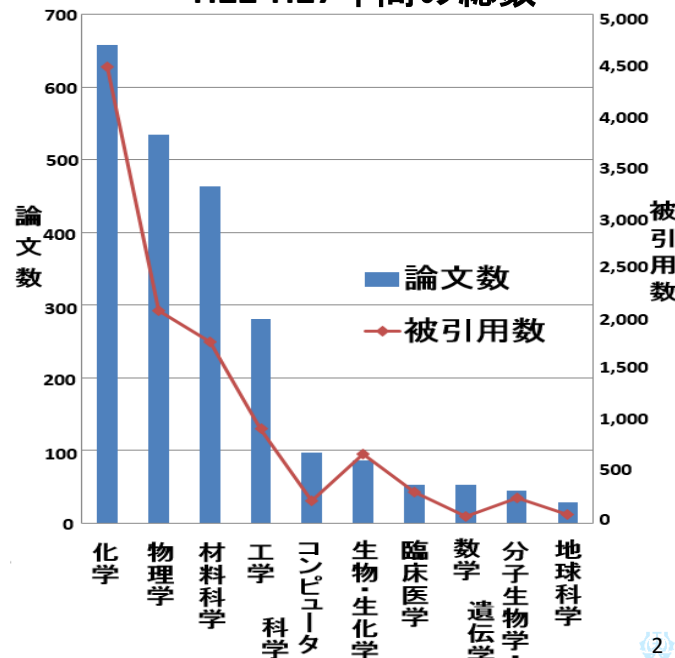
本学の論文において被引用数が各年各分野でTop10%に入る論文の割合の推移



本学の論文の質の推移<CNCI>



本学の研究分野ごとの論文数 H22-H27年間の総数



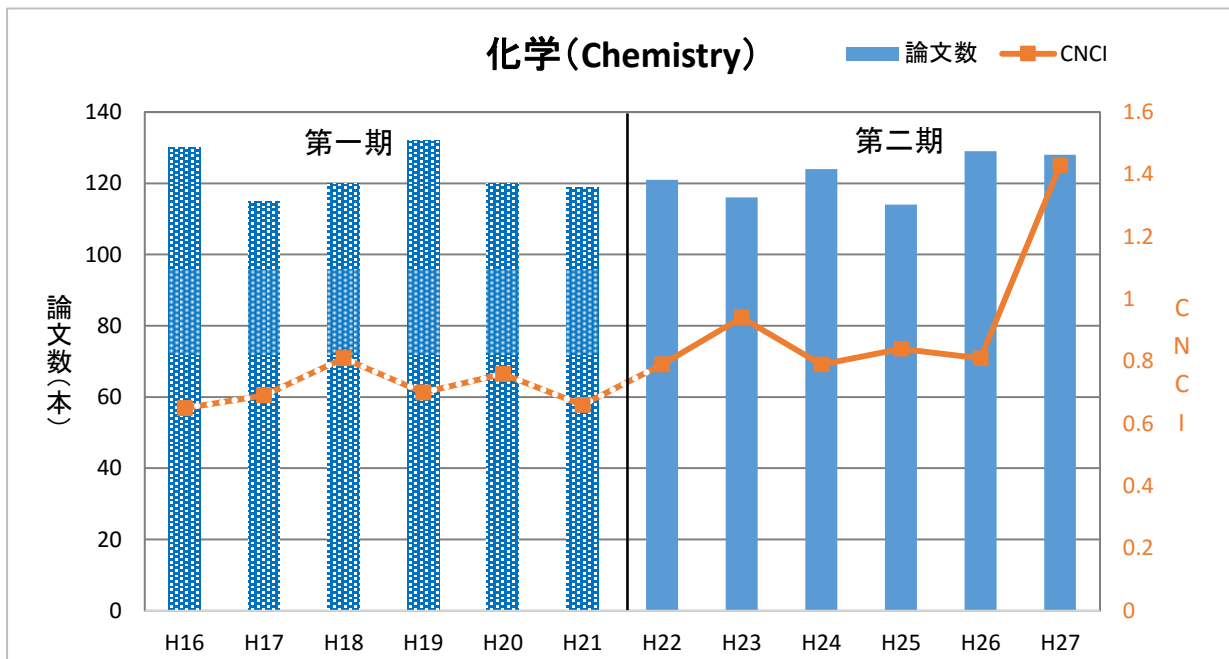
CNCI: 論文/総説等の被引用数を元に、分野、論文様式や発表年を超えて比較できるように正規化された研究レベルの数値、世界平均は約1

表2：第2期中期計画中のCNCI上昇と関連のある研究分野（論文数順に配置）

化学 (Chemistry)

全体のCNCI上昇への関与が大きい分野

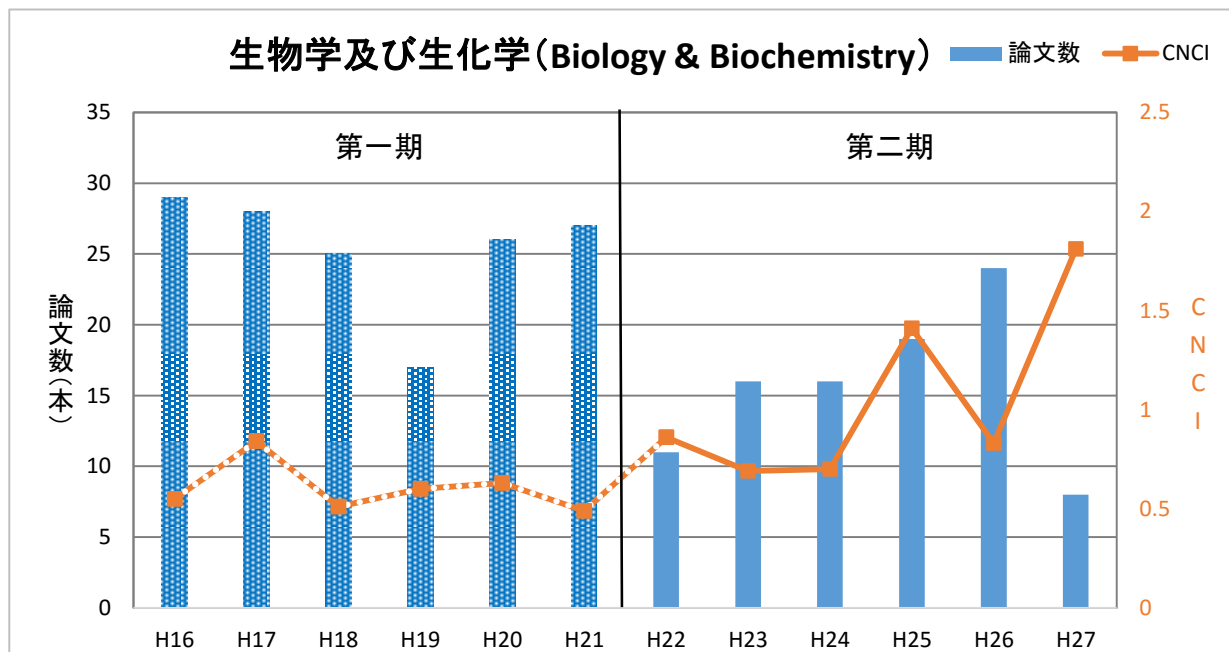
区分	第一期						第二期						平均
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
論文数	130	115	120	132	120	119	121	116	124	114	129	128	122
CNCI	0.65	0.69	0.81	0.7	0.76	0.66	0.79	0.94	0.79	0.84	0.81	1.43	0.82



生物学及び生化学 (Biology & Biochemistry)


全体のCNCI上昇への関与が大きい分野

区分	第一期						第二期						平均
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
論文数	29	28	25	17	26	27	11	16	16	19	24	8	21
CNCI	0.55	0.84	0.51	0.6	0.63	0.49	0.86	0.69	0.7	1.41	0.83	1.81	0.83



出典：2010-2015年間にWeb of Scienceに登録された論文(Article, Letter)全てに対してInCitesのESI (Essential Science Indicators)分野に基づき抽出。全ドキュメントタイプで検索。(平成28年6月14日時点のデータ)

【2】オンライン国際情報配信サービス「EurekaAlert!」を始めました。

URLはこちら  <http://www.eurekaalert.org>

<掲載記事>



EurekaAlert!
The Global Source for Science News

SEARCH ARCHIVE ADVANCED SEARCH

HOME NEWS MULTIMEDIA MEETINGS PORTALS ABOUT LOGIN REGISTER

PUBLIC RELEASE: 22-FEB-2016

New bacterial pump could be used to remove cesium from the environment by light

Research group at Nagoya Institute of Technology (NITech) identifies a new molecular pump that could facilitate collection and storage of cesium

NAGOYA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Media Contact
Kuniki Shiraki
rao@adm.nitech.ac.jp
81-527-357-424
@nitechofficial
<http://www.nitech.ac.jp/eng/index.html>

More on this News Release

New bacterial pump could be used to remove cesium from the environment by light
NAGOYA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

JOURNAL
Journal of Physical Chemistry Letters

FUNDER
Grants-In-Aid for Scientific Research -KAKENHI-

KEYWORDS
BIOCHEMISTRY BIOCHEMISTRY
BIOLOGY GENETICS/GENOMICS/BIOPHYSICS
BIOTECHNOLOGY BIOTECHNOLOGY
MICROBIOLOGY

IMAGE: A STUDY BASED ON SITE-DIRECTED MUTAGENESIS THAT CHANGED THE KEY AMINO ACIDS WITHIN A BACTERIAL ION PUMP HAS PRODUCED A CESIUM PUMP, WHICH COULD POTENTIALLY EXTRACT CESIUM FROM THE ENVIRONMENT... [view more](#)

EurekaAlert!とは・・・科学雑誌「Science」の発行などを行っているアメリカ科学振興協会（AAAS※）が運営する、科学技術に関するニュースソースを無料提供するサービス。

※AAAS …The American Association for the Advancement of Science の略

2016年2月22日

「光を使って放射性セシウムを回収するタンパク質の創成（アミノ酸変異を用いて天然に存在しないカリウムイオンを汲み出すタンパク質の創成の報告）」を掲載しました。

世界にアピールしたいユニークな成果が出たら、速やかに（3か月以内）URA（内線7424）または nitechura@adm.nitech.ac.jp までご連絡ください。